

水と人がつながる山・川・海 皆で取り組む流域一体の川づくり

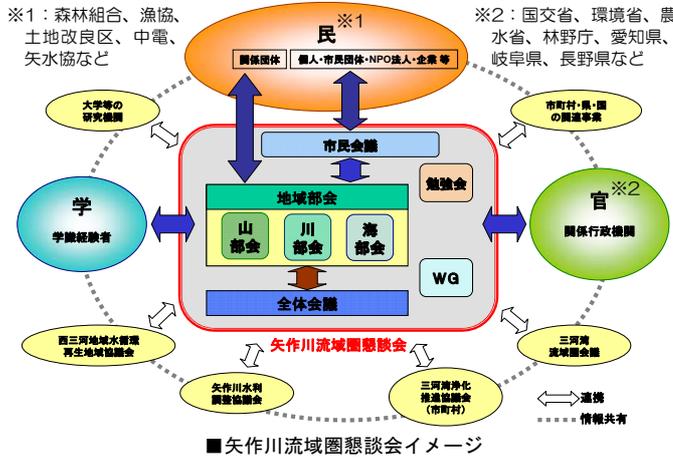


団体名：矢作川流域圏懇談会
発表日：平成 25 年 11 月 2 日

■矢作川流域圏懇談会とは



- ◆目的：河川整備計画に基づき、河川管理者だけでは“絶対”解決できない課題を解決し、いい川づくりと調和のとれた流域圏全体の発展につなげる。
- ◆メンバー：個人・市民団体、関係団体、学識経験者、国・県・市町村など 100 名以上
- ◆活動内容：市民が中心となり、矢作川現地を学び、意見交換を行うことを通じて、流域圏の課題を自分たちで提案し、その解決に向けた、流域圏一体の取り組みを行っている。



■矢作川流域圏懇談会イメージ



■活動範囲

■市民が中心となって、流域圏の課題に取り組み、悩んでいます



【全体】
 <これまでの主な活動>
 ・市民企画会議（WG）
 ・市民会議
 ・市民提案による勉強会（森の健診、生き物調査、河川事業の勉強など）
 ・全体会議

各部会での活動の情報交換や流域圏一体化に向けた議論、市民提案による勉強会等の活動を行っている。

【山部会】
 <これまでの主な活動>
 ・山村再生担い手づくり事例集の作成
 ・矢作川流域山村ミーティング
 ・森づくり、木づかいガイドラインの検討

検討テーマである「人と地域の問題」、「森の問題」を解決するため、事例集、ガイドライン作成に向けて活動している。

【川部会】
 <これまでの主な活動>
 ・矢作川の瀬・淵調査と保全・創出方法の検討
 ・家下川（支川）の段差解消・水源確保の検討
 ・川の活動情報の共有
 ・河川事業のチェック

「魚の棲みやすい川づくり（上下流問題）」「地先の課題」をテーマに、モデル地区での検討を進めている。

【海部会】
 <これまでの主な活動>
 ・ごみ・流木調査
 ・干潟生き物調査
 ・三河湾内水質調査
 ・海へのアクセス調査

「親しみやすい豊かな海」の実現を目標に、ごみ・流木問題、絆再生、干潟・ヨシ原再生をテーマに活動している。

■アピールポイント



<活動や事業の発想・視点の先進性やユニークさ>
 川づくりの源である山、川づくりを写す海を加え、川づくりを流域圏という単位で進め、それぞれの地域で川に係る多くの市民、企業、学識者、行政が連携・協働して河川管理者だけでは“絶対”解決出来ない多様な課題への取り組みや情報共有・意見交換を山・川・海部会が毎月2回以上のペースで進めている。



<工夫した計画手法や技術>
 ・河川工事の実施に際して、魚、鳥などの生物、植物など詳しい市民、専門家などとともに現地調査・意見交換を行いながらより良い川づくりを行った。
 ・ごみ・流木調査や流域圏として統一性のある森林管理、矢作川の森の恵みが中下流や海まで行き届く取り組みを進めている。
 ・2年目から、市民企画会議を新設し、市民主導の運営にシフトした。



※上記は、「第6回いい川づくりワークショップ」で発表した内容です。